

高校生のデジタル読書の現状と利用傾向

～電子書籍・電子マンガサービスを中心に～

東山美穂* (lz260091@senshu-u.jp), 有山裕美子** (yumiko_ariyama@sc.kogakuin.ac.jp)

植村八潮* (yashio@isc.senshu-u.ac.jp)

*専修大学

**工学院大学附属中学・高等学校

1 研究背景と目的

毎日新聞社と全国学校図書館協議会が毎年共同で実施している学校読書調査¹では、年々子どもたちの不読傾向が強まってきているとされている。この調査では、「読書」の対象範囲を明言していないが、アンケート調査で電子書籍の読書状況に関する質問項目を紙媒体の書籍（以下、紙媒体とする）と別途設けていることから、その読書対象の範囲は紙媒体の書籍（マンガ・雑誌を含まない）を読むことがとされていることが推察される。

同調査によると、高校生の大半が月に1冊も本を読まない、いわゆる不読者であり小学生・中学生と比較して本を読んでいないことがわかる。

しかし、視聴行動分析サービスを提供しているニールセンデジタル株式会社が「スマートフォン視聴率情報 Nielsen Mobile NetView」のデータをもとに発表した、2017年2月のマンガアプリの利用状況²をみるとマンガアプリの利用者の6割が20代以下であることがわかっている。

また、2017年3月に発表された「学校図書館における電子書籍利用モデルの構築報告書」³によると、小説投稿サイト「小説家になろう」の利用者の、紙媒体の書籍の不読率が高いことが明らかになった。

これまで、ディスプレイ上でデジタルコンテンツを読む「デジタル読書」は、読書調査の対象範囲にはされてこなかった。高校生は紙媒体の不読率が高いとされてきているが、デジタル読書においては紙媒体と異なる読書状況であるのではないかと考えた。

そこで本研究では、紙媒体だけではなくデジタル読書を含めた高校生の利用状況の一端を調査し、デジタル読書における傾向をみることを目的とする。

2 調査方法

先行研究の対象校であった工学院大学附属中学・高等学校の高校1～3年生894人を対象に9月11日～10月18日の期間で紙面上にてアンケートを行った。アンケートでは、先行研究の読書調査過去5年分のアンケート項目を参考に、紙媒体・電子媒体での普段の読書量（月平均）、利用経験のある電子書店・電子書籍サービスを聞いた。

¹ 全国学校図書館協議会「第63回学校読書調査」毎日新聞2017年10月27日

² 「若年層でスマートフォンからマンガを読む習慣が定着～ニールセン マンガアプリの利用状況を発表～」2017
http://www.netratings.co.jp/news_release/2017/03/Newsrelease20170328.html (2017年11月22日確認)

³ 電子出版制作・流通協議会／専修大学電子書籍研究プロジェクト『学校図書館における電子書籍の利用モデルの構築報告書』、2017、電子出版制作・流通協議会

3 高校生の読書状況

回収人数は785人、回収率は87.8%であった。回答人数の内訳は高校1年生が218人、高校2年生が233人、高校3年生が195人、学年・性別未記入のため不明の回答者が139人。有効回答数は合計646人、約72.2%であった。

3.1 高校生（全体）の読書状況

平均読書冊数はコミックス以外紙媒体での読書のほうが多く、コミックスは電子媒体で読む傾向にあることがわかった。紙媒体での平均読書時間（分）は30.7分、電子媒体での平均読書時間（分）は、20.7分であった。紙媒体での読書平均が電子媒体での読書平均より10分長かった。本研究における「不読者」（紙媒体・電子共に1日の読書平均時間が5分以下を指す）は全体の36%、233人であった。不読者については、次節でアンケート結果を踏まえて考察することとする。

デジタル読書における読みやすさに関しては、縦書き（縦読み）が306人、横書き（横読み）が268人、未回答のため不明が73人であった。今回は、縦スクロールや横書きの小説などのサービスが出てきていることを踏まえ、小説やマンガの形態を問わず聞いた形になっているので、それぞれの形態ごとに設問を設定するとまた違った回答になると考えられる。

電子書籍・電子書店サービスの利用状況については、利用したことがあると答えた生徒は全体（646人）の56%（364人）、利用したことが無いと答えた生徒は37.1%（240人）、未回答のため不明の生徒が6.5%（42人）であった。最も多く利用されていたサービス上位3件は、「LINEマンガ」、「comico」、「ジャンプ+」であった。その他の自由回答の中でも特異であったのが、エロ同人まとめサイト「でちゃもれ速報」、「同人あんでな」というエロ同人コンテンツや、マンガの違法アップロードサイト「漫画村」を挙げている例があり、他の電子書籍・電子書店サービスと同列に扱っていることが明らかになった。

また「漫画村」と答えた生徒は、紙媒体での読書が1日30分以上で、電子媒体より紙媒体で普段から読書をしているとみられる生徒であった。

3.2 読書時間ごとの読書状況

続いて、読書時間別の平均読書時間を見ていく。今回はアンケート結果の有意差を反映させるため、紙媒体・電子媒体での読書時間が1日5分以下である生徒を「不読者」、紙媒体・電子媒体での読書時間が1日10分以上ある生徒を「読者」、紙媒体での読書時間は1日5分以下であるが、電子媒体での読書時間が1日10分以上ある生徒を「紙媒体不読者」、電子媒体での読書時間は1日5分以下であるが、紙媒体での読書時間が1日10分以上ある生徒を「電子媒体不読者」の4グループに分けている。

読者（n=162）の平均読書時間（分）はそれぞれ、紙媒体が61分、電子媒体が65.8分で、電子媒体不読者（n=174）の紙媒体での平均読書時間（分）は53.3分と、紙媒体・電子媒体どちらも読書をしている生徒のほうが、紙媒体でしか読まない電子媒体不読者の生徒よりも10分ほど紙媒体での読書時間が長かった。

また、紙の書籍の平均読書冊数も、読者は月平均3.1冊に対し、電子媒体不読者は1.9冊と、どちらも読んでいる生徒のほうが、紙媒体しか読まない生徒より、本を読んでいると言える。

続いて、サービスを利用した経験の有無を問わず、アンケート項目〈3-2〉でサービスを回答した生徒を読書時間毎に分け、分析を行った。4つのグループに共通して、「comico」と「LINEマンガ」は特に利用率が高かった。不読者のサービス平均利用件数は2件、読者は4件、紙媒体不読者は2.9件、電子媒体の不読者は2.3件であった。紙・電子媒体でも読書を普段からしている「読者」の生徒はサービスの利用件数が最も多い。

それぞれのグループの生徒が利用しているサービスの割合をみると、不読者 (n=111) と紙媒体不読者 (n=59) では「小説家になろう」の利用率がそれぞれ2%であるのに対し、読者 (n=130) は7%、電子不読者 (n=90) は8%と、小説投稿型プラットフォームの利用率が比較的高かった。普段から紙媒体での読書をしている生徒は、これらのサービスで提供されているコンテンツを読書対象と認識していると考えられる。

これに対し不読者は「LINE マンガ」と「comico」がそれぞれ20%を超え、他グループと比較してもその利用が集中している。読者はサービス利用の平均件数が多く、どのサービスも平均的に利用しているため、「LINE マンガ」や「comico」は他のグループよりも利用率が低かった。また、紙媒体・電子媒体での読書時間がどちらも0分であると回答しているにもかかわらず、「comico」や「LINE マンガ」を回答している生徒がいた。これは、不読者がマンガアプリサービスでのコンテンツ利用を読書と捉えていないということが推察される。

4 考察と課題

今回のアンケート結果から、以下の4つのことが明らかになった。

①本研究における「不読者」は全体の36%であった。

今回の調査では、従来の読書調査における、月に本を1冊も読まない「不読」現象と比較すると、本を読んでいる傾向にあることが分かった。しかし、従来の読書調査ではデジタル読書を含んでいないため不読率が高い傾向にあることが考えられる。本研究では、デジタル読書を含めると、不読の傾向は下がっていることから、従来の読書調査でも、デジタル読書を含め現状を把握していく必要があると考える。

②本を読む生徒は、紙媒体でも電子媒体でも本を読んでいる。

普段紙媒体でしか本を読まない生徒「電子不読者」より、紙媒体・電子媒体でも本を読む「読者」のほうが、月の平均読書冊数・1日当たりの平均読書時間が多い・長い傾向にあることがわかった。

また、電子媒体でしか本を読まない生徒「紙不読者」は、1日の平均読書時間（電子媒体）が35.7分と、「読者」の65.8分（電子媒体）より短い傾向があった。コミックスにおける平均読書冊数を見ると、「読者」が8.3冊、「不読者」が7.9冊と冊数には大きな差がみられない。これは「読者」が電子媒体において、コミックスだけではなく書籍も読んでいることから、「紙媒体不読者」はそもそも「読者」と比較して読書力が少なく、マンガアプリで1話単位の短い作品を読んでいる結果、読書時間が短くなっているのではないかと推察される。

③読書時間別でサービスの利用傾向に差異があった

「読者」は電子書籍・電子書店サービスをまんべんなく利用している傾向があった。また、特に出版社発のマンガアプリや、「小説家になろう」などのサービスが本を読んでいる生徒より利用する割合が高かった。これに対し、「不読者」並びに「紙媒体不読者」は「LINE マンガ」や「comico」などのマンガアプリサービスに利用が集中した。②でも述べた通り、元々紙媒体で本を読まない生徒は、普段読んでいる生徒よりも読書力が少ないため、利用が集中したと推察する。

④違法サイトをコンテンツサービスと同列に扱っている。

今回のアンケート調査では、電子書籍・電子書店サービスの利用状況の項目で、利用経験のあるサービスにその他と回答した生徒の中で、自由回答記述に「でちゃもれ速報」や「同人あんでな」というエロ同人まとめサイトを回答した生徒が2人、さらには読書ジャンルでその他を回答した中で成人向け・R18・エロなどを回答した生徒が3人いた。上記のサイトは、R18の二次創作やマンガコンテンツを違法転載またはアップロードしている。他にも、利用サービスでその他を回答した生徒で、「漫画村」という無料でマンガを閲覧できるビュワ

一サイトを回答した生徒が4人いた。

このことから、ごく少数ではあるが高校生が他の電子書籍・電子書店サービスと、違法アップロードサイトやエロ同人サイトなどを読書コンテンツサービスとして同列に扱っている例が今回の調査を通して明らかになった。

今回のアンケート結果から、利用件数上位のサービスが電子書籍ビジネスの無料モデルであることから、高校生にとって本は無料で読むという意識があるということを推察した。このことから、デジタルコンテンツに対する著作権意識をどう学んでいくのが課題であると考えた。

また、本研究では電子書籍・電子書店サービスやマンガアプリサービスの利用状況を調査し、その傾向を明らかにすることを目的としてきたが、「何を読書と認識しているのか」ということについては深く言及が出来なかった。

さらに、電子書籍・電子書店サービスのコンテンツ傾向が読書活動に影響しているかどうかや、従来の読書調査を踏まえて不読について再考することが出来なかったため、今後の課題としたい。

参考文献

- [1] 全国学校図書館協議会「第63回学校読書調査」毎日新聞2017年10月27日
- [2] 株式会社浜銀総合研究所『高校生の読書に関する意識等調査 報告書』2015
<http://www.kodomodokusyo.go.jp/happyou/datas.html?page=5> (2017年11月22日確認)
- [3] 舞田敏彦『教育の使命と実態 データからみた教育社会学試論』2013、武蔵野大学出版会
- [4] 電子出版制作・流通協議会／専修大学電子書籍研究プロジェクト『学校図書館における電子書籍の利用モデルの構築報告書』、2017、電子出版制作・流通協議会